

さらなる飛躍を目指して



仲町の坂を上る三里塚の山車(山車まつり)

市制施行60周年という節目を迎えたことし3月、本市は国家戦略特区に指定されました。平成32年には東京オリンピックの開催も決まり、未来に向けて、さらなる発展を目指します。

成田スカイアクセス線が開業

都心と成田空港を結ぶ新たな鉄道路線として、成田スカイアクセス線が平成22年7月17日、開業しました。京成電鉄が運行する最高時速160キロメートルの新型スカイライナーにより、京成日暮里駅と空港第2ビル駅間の所要時間が36分に短縮。空港第2ビル駅と羽田空港駅を100分で結ぶ直通特急列車も新設されました。

また、アクセス特急が停車する成田湯川駅が松崎地先に新たに開設されました。

東日本大震災が発生

平成23年3月11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源として国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震が発生。宮城県などは震度7の揺れに見舞われました。津波や火災の発生、福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の放出など、全国18都道府県にわたり甚大な被害をもたらしました。

市内でも震度6弱を観測し、崖崩れ、家屋・道路・橋梁の損壊など、各所に大きな爪痕を残しました。

市役所総合窓口がオープン

引越しや結婚・出生などに関する複数の手続きが1つの窓口で行える総合窓口が、平成23年10月11日に市役所1階に開設されました。

総合窓口では、住所の異動や戸籍の届け出、それに伴って必要となる国民健康保険・国民年金・就学などに関する手続きをまとめて行えるほか、課税証明・所得証明・納税証明などの交付も受けられます。

これまでは市民がそれぞれの事務を取り扱う課を移動して手続きする必要がありました。その手間が省けるようになりました。

新たな名物・

成田ソラあんぱん

新しいご当地グルメを開発して成田の魅力をもっとPRしようと、市職

Narita Chronicle

「平成22年～26年の出来事」

平成22年	1月	成田市観光キャラクター「うなりくん」が広報なりたに初登場
	7月	成田スカイアクセス線成田湯川駅開業
平成23年	1月	小泉市長が2期目の就任
	3月	東日本大震災が発生
平成24年	7月	成田ソラあんぱんが販売開始
	4月	公津の杜中学校が開校
平成25年	7月	「もりんびあこうづ」がオープン
	10月	台風26号により市内に甚大な被害
平成26年	3月	成田市が国家戦略特区に指定
	4月	下総みどり学園が開校



空港と都心を結ぶ成田スカイアクセス線



公津地区の新しい交流拠点もりんびあこうづ



市内初の小中一貫教育校・下総みどり学園



成田ソラあんぱんをどうぞ



甚大な被害をもたらした東日本大震災

成田市観光キャラクター「うなりくん」が誕生

「広報なりた」平成22年1月1日号で、1,557点の応募の中から市民投票で選ばれた観光キャラクターが発表されました。成田空港を飛び立つ飛行機と名物のウナギをイメージした、その名も「うなりくん」。現在は市民のみならず日本中の人に愛されるキャラクターに成長しました。



特別住民票を交付

国家戦略特区に指定

市制施行60周年を迎えたことし3月、国が進める新しい特別区域構想で、ビジネスのしやすい環境を整え、国際競争力のある新事業を創出することを目指す「国家戦略特区」に本市が指定されました。平成24年7月1日に市内で販売が開始されると、たちまち人気商品に。販売開始当初は4種類でしたが、現在では11種類が市内で販売されています。

ことし9月には新作のレシピを初めて市民から募集し、11月15日に行われた産業まつりで試作品の披露と人気投票を行いました。会場では新作をひと口味わおうとする人が長蛇の列を作りました。

また、平成32年には東京オリンピックの開催が決定。外国人観光客へのおもてなしなど、本市が国際交流の拠点として重要な役割を担うことが期待されます。本市ではこれからも、さらなる発展と将来に向けた飛躍を目指したまちづくりを進めていきます。

また、平成32年には東京オリンピックの開催が決定。外国人観光客へのおもてなしなど、本市が国際交流の拠点として重要な役割を担うことが期待されます。本市ではこれからも、さらなる発展と将来に向けた飛躍を目指したまちづくりを進めていきます。